

奈良が育む水のサイクル

「奈良県の林業に関わる人が減っている。奈良県で生まれ育った私にとって、子供時代から正直聞き慣れてしまった言葉です。最近では教科書にも取り上げられるようになってきました。私は全くといっていいほど興味がなく、気にも留めずに毎日を送っていました。」

そんな私が林業に興味を持ち始めたのは、小学五年生の時です。いつものようにひまな休日をご過ごしていた私に、母が言いました。「真心、おもしろい所に連れてってあげようか。」

そして、着いたのが天川村。何と林業が体験できるというのです。最初は乗り気でなかった私ですが、木を全力で切り出すうちにその魅力に気づき始めました。

まず、ものすごく大変な仕事です。生半可

生駒市立上中学校 二年

椎野 真心

な気持ちでやるものではありません。しかし、自分の力を出し切った後はすごく清々しい気分になったのを覚えています。

そして、人との協力が何よりも大事です。参加者の人達とはもちろん初対面だったので、終わるころにはすっかり仲良しになることができていました。

こうして林業に興味がわいてきた私なのですが、「林業と水なんて関係がこれっぽっちもないじゃないか。」と考える人も多いと思います。実際、私もその関係については知識はなかったのです。

それを知ったのは、奈良で開かれたあるイベントで配られた一つの冊子です。家で何気なく読んでいたのですが、ある言葉が目にとまりました。「林業と海」その文を読み進めると、私はもうページから目が離せなくなり

ました。自分の想像をはるかに超えた水の神秘を感じたからです。

まず、人工林の手入れをきちんとする事によつて様々な生物たちが暮らすようになります。こうして豊かになった森は、それと同じに、豊かで美しく、養分も豊富な水を育むことができるようになるのです。そしてその水が川、海へと流れ、また雨となって山へと帰ってくる、というサイクルが出来上がります。

奈良県には、海がありません。だからこそ「林業」という職業が発展してきました。しかし、それが結果的に川や海につながっていた、水と深く関わっていた、ということに私はとても感動して、色々な人が育んでいる美しい水を守らなければならぬ、という決意を新たにしました。

そこで私は母と話し合いました。

「水を守るためには、私たちに何ができるやろう。」

そして今、一つずつ取り組みを始めています。例えば、節水です。洗濯にはお風呂の残り湯を使ったりしていません。また、食器洗いの

際には、食べかすをふきとり、洗剤を使わないようにしています。

私達が知らないところで水は日々循環しています。そしてその水を美しく保っているものの一つが林業です。私は、この産業が発展した奈良をほこりに思っています。豊かな水を育んでいる森林のことを胸に、これからも環境を守る取り組みを続けていきたいです。